

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 26

事業所番号	2691800078		
法人名	株式会社 ミストラルサービス		
事業所名	ミストラル とよさと		
所在地	京都府綾部市栗町土居ノ内31		
自己評価作成日	平成27年03月03日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この施設に関わるすべての人が“笑顔になれるように”とスタッフ一同、日々業務に取り組んでいます。「ひとりひとりを大切に“わ”のある暮らしを」を理念に、認知症になっても安心して住み慣れたこの地域でその人らしく過ごして頂けよう、ご本人様、ご家族、地域の方々と一緒にゆっくりと関わられる施設を目指します。入居者様の今出来ることの大切に今後もしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成27年3月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

綾部市豊里地区で統廃合した小学校を改装したグループホームであり、地域住民からは「何かのときに安心だ」と言われ、親しみをもって受け入れられている。昨年の豪雨災害のときにはホームに避難したいという人が多く、避難場所として市と協定している。自治会に加入し、文化祭に「豊里の四季」を大きなちぎり絵にして出品、納涼祭や感謝祭にも参加している。自治会が豊里の民話を紙芝居にして、見せに来てくれる。公民館の行事である「ふるさと探検ウォーク」には職員も参加し、救護の手伝いをしている。市主催の「すこやかシニア教室」に利用者が参加、職員は市の物忘れ相談を担当している。こういった地域貢献の活動が大きい。利用者は茶道、書道、短歌等の文化人も多く、季節ごとの花を觀賞する外出や馴染みの関係支援の個別外出等を楽しみながら、毎日の暮らしをゆつりと送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念である“やさしい街づくりに貢献する”ホームの理念(わ)のある暮らしをの添って、住み慣れた地域の中でその人らしく過ごして頂ける様に毎日を大切に取り組んでいる。施設内にも張り出し日々意識している。	以下の項目すべて3Fユニットと同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館活動や行事など毎年参加させて頂き、散歩などしていても声をかけて頂けるようになっている。又、事業所として地域への広報誌も発行している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学習会や電話や飛び込みの介護相談などサービスの紹介や相談に応じている。施設長及び管理者が認知症キャラバンメイトやオレンジロードなど積極的に広報活動や養成講座に出かけている	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催して地域の方や民生児童委員、行政関係、入居者様のご家族代表計6名+施設長、管理者、スタッフで構成している施設での取り組みや事故、ひやりはつなど報告し、貴重な意見を頂きながらサービスの質の向上や安心した施設作りに生かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員としての参加はもちろん、事故や事業内容の変更など常に連絡の取りやすい関係にある。市主催の研修や物忘れ相談など参加させて頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの基づいて理解はしており、関わりの中での身体拘束(言葉使い)などは意識しケアに当たっている研修については社内書面研修にて実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内書面研修にて実施し、理解を深めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在手続き中の方がおり、慎重に進めている、各スタッフにも報告や説明など行い理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書及び契約書の内容を十分に説明し同意を得ている(介護保険改定時も同様) その際には施設に足を運んで頂き館内の案内や料金システムの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2度内容の異なる「お客様アンケート」を実施その結果をスタッフにフィードバックし運営に反映させている。本人度も積極的にご家族面会時には本人様の様子や状態などお伝えしながら、要望など聴く様に意思統一を行った。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフは毎年自己評価シートによって現状を振り返りを行い、管理者がアドバイスをを行っている。代表者や施設長、管理者は積極的に声をかけて不安や意見を聴く様にしている、また、フロアー会議などでも意見の言いやすい現場を目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場を第一に考えて現場の意見を聴くように施設長や管理者も現場に足を運び耳を傾けている又、代表自らも現場へ何度も足を運んでくれている環境にある。職場でのやりがい向上心、前向きに取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価シートでの把握、現場での指導やアドバイスを、迅速に代表者もしくは施設長、管理者が現場にて応じている。また、スタッフが苦手としている実技など聞き取り現任者研修なども実施して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連携会議などに参加し交流する機会を作っている。地域内にあるグループホーム(別法人)とは運営推進会議などに招待したり行かせて頂いたりし、交流しながら意見交換など行っていくサービスの質の向上に繋げている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人様、ご家族に必ずお逢いし、情報収集している。情報についてはスタッフとも共有し深めている。入所時も面談した管理者や計画作成者などは立会い本人様の不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず施設に足を運んで頂き、ホームの様子や時間の流れ概要など説明を行っている。その中で要望など伺い準備を整えている。入所時は不安や不穏などあるためご家族に連絡を取ることが多い。密な連絡を取るなかで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族との面談の中から必要としていることを確認し、カンファレンスや申し送り等で検討し支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面場面の応じて両方の視点をもって関わりをしている。いつでもその人その人の気持ちに寄り添い暮らしを共に築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は勿論のこと、二か月に一度は本人様のアルバムを作成し様子だけでなく表情などをお伝えしている。ご家族との外出や外食、時には宿泊などしやすい雰囲気も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が勤めておられた保育園への訪問やお弟子さんによるお茶会など、本人様が築いてこられた関係などを出来るだけ大切にしなが、なじみの関係や場所など途切れないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の大半をホールで過ごされているため、その日の状態に応じ座る位置や配置など臨機応変に対応している。利用者様同士のそれぞれに関係を築いておられるため、スタッフは観察しながら介入しバランスを保っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な処置や吸引など必要になられやむなく退所されが入院後も必要に応じ連絡を取り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向などの把握が年々難しくなる中“聴く、待つ、寄り添う”をモットーに関わりを深め支援している。出来る限り自由に過ぎて頂ける様に見守り中心に行っている。その中で今持っている機能の維持が出来る様に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談、その時期に関わっておられたケアマネジャーにも確認する時もある。また、入所されてからは本人様との会話やご家族とのかかわりで、把握させて頂いている。アルバムなどを持ってきてもらうこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主には「健康チェック」血圧・脈拍・体温の確認「食事・水分・排泄」など各シートで把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ユニット会議を設け、各利用者様のカンファレンスを行いプランを作成し、共有化し、実施している。翌月にはモニタリングを行い修正をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過に日々の記録を記入しプランの関わることが分かりやすいように番号など入れ工夫している。その都度使いやすいように検討もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて調整しながら気持ちが満たされるように努めている。認知症の特性なども配慮しながら柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も積極的に地域行事や外出などし、安心して頂けるように取り組んでいる地域資源として、隣のカフェに地域の一員として参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前の医療との関係を継続しながら、症状に適切に対応している。基本的には定期受診はご家族対応になっていますが、緊急時や用事などこちらで対応し、受診結果など報告している。往診医にはいつでも相談できよい関係を保っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームとして看護師は非常勤ではあるが1名配置されており、現場スタッフの相談や利用者様の状態などの把握をしている。不在時についても施設内の看護師にいつでも連絡できる体制を組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず管理者が付き添い必要事項など記入、経緯や様子など医療関係者に様子や症状などお伝えしている。入院中も足を運び様子を確認させて頂いたりご家族と連絡を取りながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態変化が現れた早い段階から、その都度、主治医、ご家族、管理者同席の元、今後の方向や支援の方法など定めている。終末期の段階には施設長も含め双方納得のもとで支援にあたっている。スタッフについてはターミナルケアなど医療的な検討を定期会議や申し送り時など必要に応じ行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については社内研修を行い、各スタッフ救急時のフローチャートは電話の側などに張り出しわかりやすいようにしている。利用者様については各ファイルに閉じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度避難訓練(通報訓練・避難訓練)を行い、なるべく多くのスタッフが参加できるようにしている。地域の方々にも運営推進会議などで協力をお願いしている。万が一の備えの為AEDや備蓄品も用意はしている。災害時には避難所としても機能している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフが感謝の気持ちを持ち、笑顔が出やすいように心がけている。おひとりおひとりに合わせた声かけを行い、時間や場面などに応じた対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のお宅にお邪魔させて頂いているの気持ちを持ち、自由に過ごして頂ける様にしている。起床時間や就寝時間、入浴などその日の気分や体調などあるので、本人様の意思を最優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフにとっては「働く場」利用者様にとっては「生活の場」このことを理解し関わりを行っている。本人様の意思の尊重は勿論の事、伝えにくい方には伝いやすいように関わりを持つようにし、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみから始まり、カットや洋服など本人様の希望に応じ行っている。入所前からの美容室なども引き続き利用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、配膳下膳など利用者様の出来る範囲で一緒に行っている。終始和やかな雰囲気大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、記録し比較出来る様に、日常生活援助フローシートを活用し食事量、水分量など管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年も食前の緑茶でうがいは継続している。協力医である、歯科医院との関係もよく口腔ケアの仕方や嚥下の体操など指導頂き実施している。その都度状態に応じ、検討しながら、本人様の機能を生かし口腔ケアのお手伝いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式の24時間シートを活用し日々の排泄パターンを把握し自立に向けた支援につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事内容になっており、運動についても、毎日のように行い予防をしている。。それでも便秘症の方については医師と相談しながら進めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お1人ずつゆっくりと入浴して頂いている。入浴カレンダーで確認しながら体調やタイミングを第一に本人様の意向を聴きながら個々に添った入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に決まりはなく、本人様のタイミングで休んで頂いている。日中の同じく自由に休息をとって頂いているが、昼夜逆転にならないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには服薬の説明を入れ各スタッフの確認、把握できるようにしている。服薬の変更時、変化が見られた場合は速やかに主治医と連絡を取り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様おひとりお一人の役割を一緒にみつけ、張りのある生活をして頂ける様に取り組んでいる。買い物などに出かけ嗜好品を選んだり楽しく気分転換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望にそって、また気分転換を考え買い物や散歩、外食、季節の花観賞など時期や体調など考慮し実施している。ご家族と温泉や外食、外泊、お墓参りなども定期的にされている。地域の協力を頂きながら、行事にも参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かっているお金を管理し、買い物時や外食外出など支払いをその人の力に応じ一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話や手紙など楽しみにされている方は多く、希望があればかけて頂いている。かかってくることも多い為、その都度応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行い、清潔に保っている。季節感が出るように季節に合った絵や貼り紙などの作品を作成し飾ったりしている。各居室に室温湿度計を設置し、プラズマ清浄機や加湿器、濡れタオルなど干したり、定期的な換気を行い健康管理にも注意し、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人の居場所作りはソファの置き方や方向など状態に応じた配置変えなど行っている。出来るだけ9名皆様が居心地の良い場所となるよう日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みについては自由にして頂いている。入所後も必要が感じられる時はご家族に協力頂き準備して頂く事もある。本人様にとって自宅のような居心地の良い場所であるように取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚でわかるように貼り紙をし、排泄、居室への自立を促している。施設内要所要所に手すりが配置されている。居室内にはトイレは設置せず出来るだけ動いていただけるような工夫もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念である“やさしい街づくりに貢献する”ホームの理念(わ)のある暮らしをの添って、住み慣れた地域の中でその人らしく過ごして頂ける様に毎日を大切に取り組んでいる。施設内にも張り出し日々意識している。	法人の理念を踏まえて開設時にグループホームの理念を「わ」と定め、年度目標は職員の話し合いによって策定している。今年度は「一人ひとりにあったきめこまかな対応」としている。家族や弟子たちが来訪し、茶道の師範であった利用者を囲んで、折にふれお茶会を楽しむことは理念の実践と考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館活動や行事など毎年参加させて頂き、散歩などしていても声をかけて頂けるようになってきている。又、事業所として地域への広報誌も発行している。	ふだん利用者は近くを散歩したり、お地蔵さん、郵便局や農協へ出かけ、出あった人と交流している。近くの人が気軽に遊びにきてくれる。買物は車でスーパーやドラッグストアに出かける。自治会に加入し、自治会の行事に参加し、自治会から見せにきてくれる紙芝居を楽しんでいる。近くの神社の祭りは喜んで見物している。小学校の運動会に参加している。中学校や高校の体験実習を受け入れている。市の物忘れ相談を担当したり、公民館の「ふるさと探検ウォーク」を職員が手伝ったりして、地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学習会や電話や飛び込みの介護相談などサービスの紹介や相談に応じている。施設長及び管理者が認知症キャラバンメイトやオレンジロードなど積極的に広報活動や養成講座に出かけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催して地域の方や民生児童委員、行政関係、入居者様のご家族代表計6名+施設長、管理者、スタッフで構成している施設での取り組みや事故、ひやりはっとなど報告し、貴重な意見を頂きながらサービスの質の向上や安心した施設作りに生かしている	家族、民生児童委員、公民館長、市高齢介護課、地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催、記録は全家族に配布している。地域の行事の誘いを受けたり、昨年の豪雨災害を踏まえて話し合ったりしている。地域の人の希望があり、グループホームを市の避難所とすることで協定を結んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員としての参加はもちろん、事故や事業内容の変更など常に連絡の取りやすい関係にある。市主催の研修や物忘れ相談など参加させて頂いている	綾部市とは報告や相談を怠らず、日常的に連携を保っている。現在、1人の利用者が成年後見制を利用することで支援を進めている。綾部市には事業所連絡会がないので、個別に他のグループホームと情報交換したり、学びあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの基づいて理解はしており、関わりの中での身体拘束(言葉使い)などは意識しケアに当たっている研修については社内書面研修にて実施している	「身体拘束をしないケア」について契約書に明記し、マニュアルを作成、職員研修を実施している。職員はスピーチロックについて認識している。事例はない。玄関ドア、非常口へのドア等は施錠し、エレベーターはキイロックしている。	認知症の利用者を24時間、365日、閉じ込めておくことの弊害を考え、職員の話し合いにより、日中の何時間かでも施錠やキイロックを解くようにすることが求められる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内書面研修にて実施し、理解を深めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在手続き中の方がおり、慎重に進めている、各スタッフにも報告や説明など行い理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書及び契約書の内容を十分に説明し同意を得ている(介護保険改定時も同様) その際には施設に足を運んで頂き館内の案内や料金システムの説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2度内容の異なる「お客様アンケート」を実施その結果をスタッフにフィードバックし運営に反映させている。本人度も積極的にご家族面会時には本人様の様子や状態などお伝えしながら、要望など聴く様に意思統一を行った。	家族は月2回の人や遠方の人は年4回くらい面会に来ている。家族には行事報告、利用者の様子、利用者の写真を掲載した『わきあいあい』という個別の便りを年4回送っている。家族にアンケートを実施しており、感謝の言葉が返ってきている。家族に利用者の食べている献立や行事のお誘いをしていない。家族懇親会を年1回開催し、全家族が参加している。	家族にはふだんからグループホームの暮らしを見てもらったり、行事に参加してもらい、グループホームへの率直な意見を出してもらえるようにすることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフは毎年自己評価シートによって現状を振り返りを行い、管理者がアドバイスをを行っている。代表者や施設長、管理者は積極的に声をかけて不安や意見を聴く様にしている、また、フロア会議などでも意見の言いやすい現場を目指している。	毎月職員会議を実施、法人からの伝達、業務の検討、伝達研修を実施している。フロア会議でカンファレンスをしている。「スタッフ室にある職員トイレは音が聞こえる」という意見等、職員は会議で率直に意見を言い、改善が進んでいる。職員は行事、食事等、係を分担し、利用者を担当している。グループホームの目標にそって、職員が自身の目標を立て、上司と面談し、達成に励んでいる。外部研修は情報により受講希望を出しており、受講料や交通費等の援助がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場を第一に考えて現場の意見を聴くように施設長や管理者も現場に足を運び耳を傾けている又、代表自らも現場へ何度も足を運んでくれている環境にある。職場でのやりがい向上心、前向きに取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価シートでの把握、現場での指導やアドバイスを、迅速に代表者もしくは施設長、管理者が現場にて応じている。また、スタッフが苦手としている実技など聞き取り現任者研修なども実施して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連携会議などに参加し交流する機会を作っている。地域内にあるグループホーム(別法人)とは運営推進会議などに招待したり行かせて頂いたりし、交流しながら意見交換など行ってサービスの質の向上に繋げている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人様、ご家族に必ずお逢いし、情報収集している。情報についてはスタッフとも共有し深めている。入所時も面談した管理者や計画作成者などは立会い本人様の不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず施設に足を運んで頂き、ホームの様子や時間の流れ概要など説明を行っている。その中で要望など伺い準備を整えている。入所時は不安や不穏などあるためご家族に連絡を取ることが多い。密な連絡を取るなかで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族との面談の中から必要としていることを確認し、カンファレンスや申し送り等で検討し支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面場面の応じて両方の視点をもって関わりをしている。いつでもその人その人の気持ちに寄り添い暮らしを共に築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は勿論のこと、二か月に一度は本人様のアルバムを作成し様子だけでなく表情などをお伝えしている。ご家族との外出や外食、時には宿泊などしやすい雰囲気も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が勤めておられた保育園への訪問やお弟子さんのよるお茶会など、本人様が築いてこられた関係などを出来るだけ大切にしながら、なじみの関係や場所など途切れないよう支援に努めている。	保育園長だった利用者の希望で園に同行すると先生や園児に囲まれて笑顔である。茶道の師範だった利用者の弟子が来訪し、お茶会をしている。信者である利用者と馴染みの教会に礼拝に行く。短歌を投稿していた利用者と掲載された雑誌を見る。併設のデイサービスを利用している利用者の姉が会いに来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の大半をホールで過ごされているため、その日の状態に応じ座る位置や配置など臨機応変に対応している。利用者様同士のそれぞれに関係を築いておられるため、スタッフは観察しながら介入しバランスを保っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な処置や吸引など必要になられやむなく退所されが入院後も必要に応じ連絡を取り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向などの把握が年々難しくなる中“聴く、待つ、寄り添う”をモットーに関わりを深め支援している。出来る限り自由に過ぎて頂ける様に見守り中心に行っている。その中で今持っている機能の維持が出来る様に取り組んでいる。	利用開始時には利用者や家族に面談し、アセスメントしている。綾部生まれ等の出身地、保健婦、お茶を作っていた等の仕事、茶道、短歌等の趣味を聴取しているものの情報は少ない。思いの把握は不十分である。	利用者のグループホームでの暮らしを支えるには利用者を深く理解する必要がある。そのために利用者の出身地や生家や兄弟姉妹、現役時代の仕事、夫の仕事、子ども等の生活歴、趣味や好きなこと等の情報を把握し、利用者の思いを探ることが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談、その時期に関わっておられたケアマネジャーにも確認する時もある。また、入所されてからは本人様との会話やご家族とのかわりや、把握させて頂いている。アルバムなどを持ってきてもらうこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主には「健康チェック」血圧・脈拍・体温の確認「食事・水分・排泄」など各シートで把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ユニット会議を設け、各利用者様のカンファレンスを行いプランを作成し、共有化し、実施している。翌月にはモニタリングを行い修正をしている。	介護計画はケアマネジャーが家族や職員の意見を聞いて作成している。身体介護で現状維持の項目が多い。介護記録は介護計画の項目に添った内容になっていない。モニタリングは毎月実施しているものの、点検項目が不十分である。	介護計画は身体介護なら自立支援の方向で、生きがいとなるような暮らしのなかの楽しみの項目を入れること、介護記録は介護計画の項目を実施したときの利用者の表情や発言を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは「介護の実施状況」「利用者の状況」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」の項目で点検すること、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過に日々の記録を記入しプランの関わることが分かりやすいように番号など入れ工夫している。その都度使いやすいうように検討もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて調整しながら気持ち満たされるように努めている。認知症の特性なども配慮しながら柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も積極的に地域行事や外出などし、安心して頂けるよう取り組んでいる地域資源として、隣のカフェに地域の一員として参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前の医療との関係を継続しながら、症状に応じ対応をしている。基本的には定期受診はご家族対応になっていますが、緊急時や用事などこちらで対応し、受診結果など報告している。往診医にはいつでも相談できよい関係を保っている。	従来のかかりつけ医に家族が同行して受診している利用者には、管理者や看護師が同行してホームでの情報を医師に伝え、医師の診断を把握している。他の利用者は毎月往診にきてくれる医師に受診している。訪問歯科を利用している。認知症は綾部市立病院に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームとして看護師は非常勤ではあるが1名配置されており、現場スタッフの相談や利用者様の状態などの把握をしている。不在時についても施設内の看護師にいつでも連絡できる体制を組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず管理者が付き添い必要事項など記入、経緯や様子など医療関係者に様子や症状などお伝えしている。入院中も足を運び様子を確かさせて頂いたりご家族と連絡を取りながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態変化が現れた早い段階から、その都度、主治医、ご家族、管理者同席の元、今後の方向や支援の方法など定めている。終末期の段階には施設長も含め双方納得のもとで支援にあたっている。スタッフについてはターミナルケアなど医療的な検討を定期会議や申し送り時など必要に応じ行っている	利用者の重度化や終末期に向けた方針は契約書に明記し、契約時に利用者・家族に説明している。医師の協力を得ることができ、ホームに看護師がいるので、ターミナルケアを実施することで、職員は一致している。看護師が職員に医療の研修を実施している。「ここで最期までお願いしたい」という利用者や家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については社内研修を行い、各スタッフ救急時のフローチャートは電話の側などに張り出しわかりやすいようにしている。利用者様については各ファイルに閉じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度避難訓練(通報訓練・避難訓練)を行い、なるべく多くのスタッフが参加するようにしている。地域の方々にも運営推進会議などで協力をお願いしている。万が一の備えの為にAEDや備蓄品も用意はしている。災害時には避難所としても機能している。	年2回の火災想定での避難訓練を実施しており、消防署の協力を得ている。地震、風水害、夜間の訓練は実施していない。AEDを備え、備蓄を準備している。ハザードマップは掲示していない。近くの人の希望で当グループホームが避難場所に指定されている。	避難訓練は職員の身に付くように、地震、風水害、夜間等を含めて年数回実施すること、ハザードマップを掲示し、職員が危険箇所を認識しておくこと、以上の2点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフが感謝の気持ちを持ち、笑顔が出やすいように心がけている。おひとりおひとりに合わせた声かけを行い、時間や場面などに応じた対応している。	法人理念の実践として、感謝の気持ちをもって笑顔で利用者に対応するように心掛けている。一人ひとりの利用者と時間や場所を共有して声を聞くようにしている。外食の機会等に利用者の嗜好品を把握するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のお宅にお邪魔させて頂いているの気持ちを持ち、自由に過ごして頂ける様にしている。起床時間や就寝時間、入浴などその日の気分や体調などあるので、本人様の意思を最優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフにとっては「働く場」利用者様にとっては「生活の場」このことを理解し関わりを行っている。本人様の意思の尊重は勿論の事、伝えにくい方には伝いやすいように関わりを持つようにし、希望に添って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみから始まり、カットや洋服など本人様の希望に応じ行っている。入所前からの美容室なども引き続き利用できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、配膳下膳など利用者様の出来る範囲で一緒に行っている。終始和やかな雰囲気大切にしている。	食事は管理栄養士がカロリー値や栄養バランスに配慮して立てた献立が調理済みで厨房から運ばれる。バラエティに富んだ献立であり、四季の行事食もある。家族の差し入れや畑で採れた野菜で1品が追加されることもある。誕生日会は利用者の希望でなべ料理等をしている。食卓に花を飾り、食事の後は会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、記録し比較出来る様に、日常生活援助フローシートを活用し食事量、水分量など管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年も食前の緑茶でうがいは継続している。協力医である、歯科医院との関係もよく口腔ケアの仕方や嚥下の体操など指導頂き実施している。その都度状態に応じ、検討もしながら、本人様の機能を生かし口腔ケアのお手伝いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式の24時間シートを活用し日々の排泄パターンを把握し自立に向けた支援につなげている。	3分の1くらいの人は排泄の自立ができています。その他の利用者については排泄チェック表をつけ、個々にパターンを把握し、声掛け誘導している。排便についても自然排便を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事内容になっており、運動についても、毎日のように行い予防をしている。それでも便秘症の方については医師と相談しながら進めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お1人ずつゆっくりと入浴して頂いている。入浴カレンダーで確認しながら体調やタイミングを第一に本人様の意向を聴きながら個々に添った入浴の支援をしている。	浴室は広くも狭くもなく、落ち着ける空間に個浴を据えている。午後の時間帯に毎週2回の入浴、利用者から入りたいと声が出た場合は応じているので毎日入る人もいます。湯温や同性介助の希望に添っている。ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。入浴拒否の利用者にはさまざま試みた結果、コミュニケーションが大切だとわかり、入浴が支援できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に決まりはなく、本人様のタイミングで休んで頂いている。日中の同じく自由に休息をとって頂いているが、昼夜逆転にならないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには服薬の説明を入れ各スタッフの確認、把握できるようにしている。服薬の変更時、変化が見られた場合は速やかに主治医と連絡を取り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様おひとりお一人の役割を一緒にみつけ、張りのある生活をして頂ける様に取り組んでいる。買い物などに出かけ嗜好品を選んだり楽しく気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望にそって、また気分転換を考え買い物や散歩、外食、季節の花観賞など時期や体調など考慮し実施している。ご家族と温泉や外食、外泊、お墓参りなども定期的にされている。地域の協力を頂きながら、行事にも参加している。	気候が良く、天気の良い日は近くを散歩している。夏の暑い日や冬の寒い日は少しの時間でも外気にあたるように努めている。近くの公園で桜、丸山古墳公園でスイレン、花の寺でアジサイやハス、安国寺でもみじ等季節ごとの花の鑑賞に行く。好きなおやつを買いたい、お寿司を食べたい、そばを食べたい等、利用者の希望を支援して個別外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かっているお金を管理し、買い物時や外食外出など支払いをその人の力に応じ一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話や手紙など楽しみにされている方は多く、希望があればかけて頂いている。かかってくることも多い為、その都度応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行い、清潔に保っている。季節感が出るように季節に合った絵や貼り紙などの作品を作成し飾ったりしている。各居室に室温湿度計を設置し、プラズマ清浄機や加湿器、濡れタオルなど干したり、定期的な換気を行い健康管理にも注意し、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	東西に延びる廊下の中央にキッチン付きの居間兼食堂、その左右の南側に居室が並んでいる。居間兼食堂はゆったりと広く、大きなガラス戸から四季の風景が見える。食卓には4、5人ずつの椅子、窓際には大きなソファ、椅子もいくつかあり、利用者の居場所となっている。ソファのぬいぐるみや食卓の花瓶に早咲きの桜の枝が見る目を和ませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人の居場所作りはソファの置き方や方向など状態に応じた配置変えなど行っている。出来るだけ9名皆様が居心地の良い場所となるよう日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みについては自由にして頂いている。入所後も必要が感じられる時はご家族に協力頂き準備して頂く事もある。本人様にとって自宅のような居心地の良い場所であるように取り組んでいる。	居室は洋間でクローゼット、筆筒等を設置している。ベッド、ふとん、椅子、机、テレビ等、利用者は使い慣れた家具を持ち込んでいる。筆筒の上に家族の写真、思い出の小さな飾りを並べている。夫の位牌に水と花を供えている人、自分の作品である掛け軸を掛けている人、趣味の短歌の本を並べている人、巨人や氷川きよしのポスターを貼っている人等、部屋は個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚でわかるように貼り紙をし、排泄、居室への自立を促している。施設内所要所に手すりが配置されている。居室内にはトイレは設置せず出来るだけ動いていただけるような工夫もしている。		